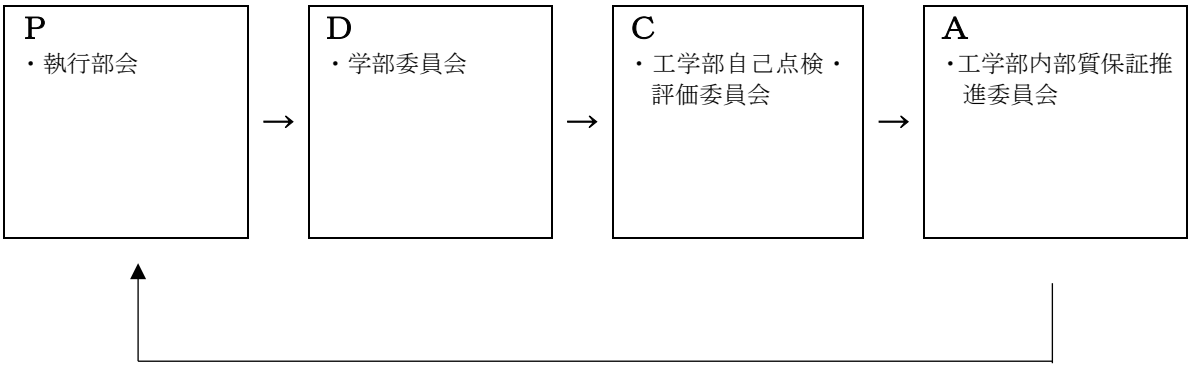
令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　工学部

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

工学部内部質保証推進委員会では，学科や総合教育の自己点検・評価が適切に行われているか，そしてそれが効果的であるかを検証している。具体的な事例としては，「点検・評価報告書」を活用し，問題点の特定と改善事項の提案を行うことで，問題が顕在化する前に対応している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

令和６年度大学評価（認証評価）結果において，基準４の概評で工学部は「学位授与方針とは別に学修・教育目標を設定していることから，学位授与方針との違いや関係性を学生に分かりやすく説明することが望まれる」と指摘されている。基準２は基準４と相互に関連するため，

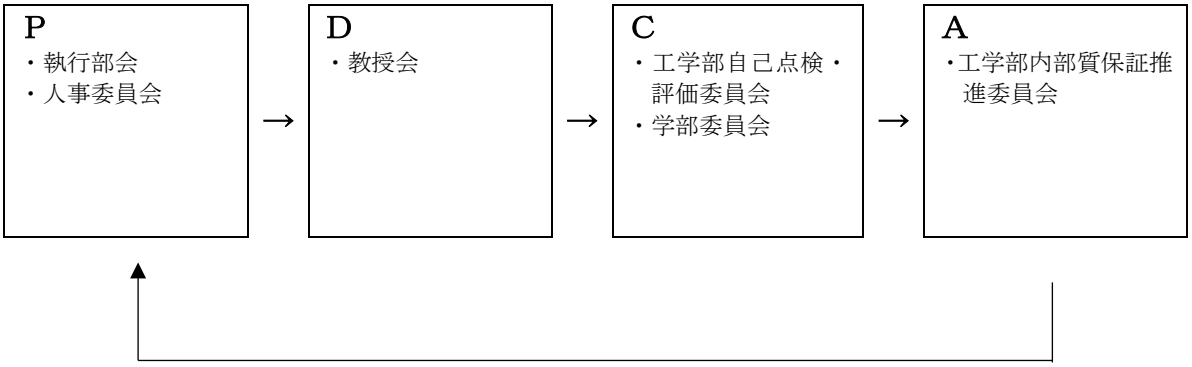
この内容を改善課題として位置付ける必要がある。例えば，工学部内部質保証推進委員会が主導し，学位授与方針と学修・教育目標の整合性や相違点を整理し，学生に明確に説明できる仕組みを構築するよう，改善が求められる。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）と学修・教育目標は，どちらも学生が大学で学ぶ上で重要な指針となるものであることから，それぞれの違いや関係性について，学生が理解できるよう説明体制を整えている。具体的には，学部要覧の冒頭で日本大学教育憲章から始まり，続けてそれに基づく学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）について記載しており，体系的に学科ごと記載している。また，「教育目標」については，歴史的に学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）策定の相当以前から定めており，学部要覧では各学科ページに記載している。初めに教育研究上の目的を，次に目的を達成するため目標として教育目標を記載し，続けてコース（系）の特徴，卒業要件，設置科目，履修系統図の順に記載しており，体系的に構成している。

上記に加えて，工学部内部質保証推進委員会の主導により，学務委員会に依頼し，入学時のオリエンテーションに新入生へ直接説明する機会を設けるとともに，教務課にて個別の相談に応じる体制を強化している。

基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

改善を図った一例として，本学部に設置されていた臨床工学技士課程の運営が，臨床工学技士受験条件の変更により，履修科目が増加し，課程の維持が難しくなったことから，将来を見据え，令和７年度末で臨床工学技士課程を廃止し，既存の課程の見直しや新たなコース設置も視野に入れた教員配置計画の変更が行われた。

学科組織の適切性については，人事委員会が中心となって，学務委員会や工学部自己点検・評価委員会と共に学科組織の適切性を確認している。また，人事委員会では，学科ごとの志願者動向を客観的な数値で分析し，問題点を整理した上で，改善策を検討している学科と密接に連携しながら学部全体で議論を進める体制が整えられている。

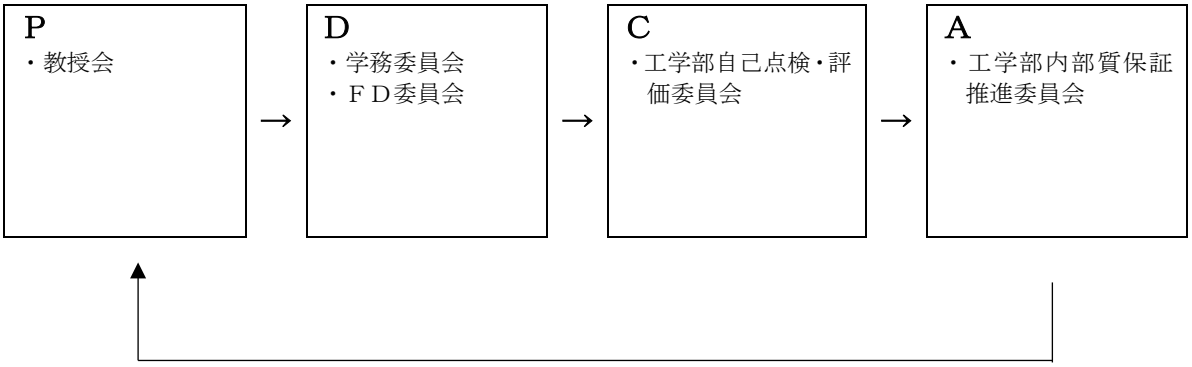
研究組織の適切性については，執行部会が中心となって，研究委員会が専門的な視点から定期的に活動を確認しており，学術・研究に関して確認を行っている。また，本学部は「ロハス工学」を教育・研究の柱としており，この理念に基づき，学科の枠を超えた研究や人材育成を推進するため，「ロハス工学センター」を設置し，このセンターを通じて，分野横断的な研究体制を整え，ロハス工学の知見を社会へと還元している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

⑸　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

教育課程及びその内容については，学務委員会において学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）・教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）及び教育課程の見直しを行っており，また教育方法については，ＦＤ委員会において授業評価アンケートを行っている。自己点検・評価等については，工学部自己点検・評価委員会において毎年度学期ごとに授業自己点検・評価を行い，学務・ＦＤ両委員会と共に工学部内部質保証推進委員会に報告している。

⑸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

教育課程及びその内容は，学務委員会において最大履修単位数を意識した履修状況や卒業率推移等について，また工学部自己点検・評価委員会において科目ごとに授業自己点検・評価を行っており，科目合格率推移や授業評価アンケートでの自由記述内容について学科ごとに検討し改善策を立案している。

改善・向上を図った事例として，授業評価アンケート結果の中で科目ごとに履修者が感想などを記載する「自由記述」部分の活用がある。自由記述部分には，履修者が本音を入力する傾

向があるため，双方の我儘な意見なのか，改善すべき意見なのかを確認するため，学科（総合教育）において科目担当者に確認（ヒアリングなど）を行った後，学科（総合教育）における対応策をまとめ，工学部自己点検・評価委員会で報告を行う。各対応策では，履修者の意見に基づき，授業内試験の試験時間の延長を行うとした事例がある。また，課題が過剰であるとの意見については，科目の教育目標達成のため，次期授業期間において，履修者に対して丁寧に説明を行うとした事例がある。

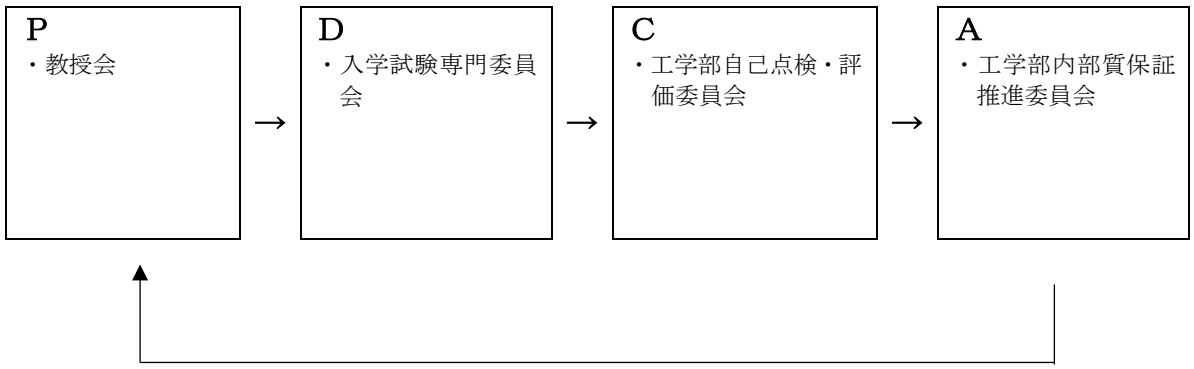
これらの実施報告が，工学部自己点検・評価委員会委員長から工学部内部質保証推進委員会に報告され，妥当であるとの回答があった。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

受入れに係る入学者選抜については，入学試験専門委員会において点検・評価した後，教授会で審議し，その結果を次年度の入学者選抜方法に反映させている。令和７年度入学者選抜では，より多くの志願者を集めるため，得意科目を生かして受験しやすいようにＣ共通テスト利用方式（３教科型）を２教科型へと変更した結果，変更前の志願者数 669 名から 723 名へと増加した。他にも，令和８年度同入学者選抜では，総合型選抜第１期（プレゼン型）について，多くの優秀な生徒が受験しやすいよう従来の専願から併願可へと変更した結果，志願者数が昨年度の９名から 21 名へと増加しており，全体としては入学定員割れしているが，改善した結果が表れている。

以上により，受け入れた学生を工学部自己点検・評価委員会において，科目ごとに授業自己点検・評価を行い，科目合格率推移や授業評価アンケートでの自由記述内容を基に学生の理解度等の推移を把握することで，様々な入学者選抜を経て受け入れた学生の状況について検証を行い，工学部内部質保証推進委員会に報告している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学

院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（是正勧告）】

令和６年度大学評価（認証評価）結果において，提言が付されているとおり，過去５年間の入学定員に対する入学者数比率の平均について，機械工学科が 0.87，生命応用化学科が 0.75，収容定員に対する在籍学生数比率について，機械工学科が 0.84，生命応用化学科が 0.71 と低いため，定員管理を徹底するよう是正されたい。

過去５年間の入学定員に対する入学者数比率の平均について，機械工学科が 0.87，生命応用化学科が 0.75，収容定員に対する在籍学生数比率について，機械工学科が 0.84，生命応用化学科が 0.71 と低いため，定員管理について是正勧告となっている。

なお，直近の令和７年度においては，過去５年間の入学定員に対する入学者数比率の平均について，機械工学科が 0.79（前年度比-0.08），生命応用化学科が 0.71（前年度比-0.04），収容定員に対する在籍学生数比率について，機械工学科が 0.75（前年度比-0.09），生命応用化学科が 0.66（前年度比-0.05）となっており，どの値も更に悪化している。

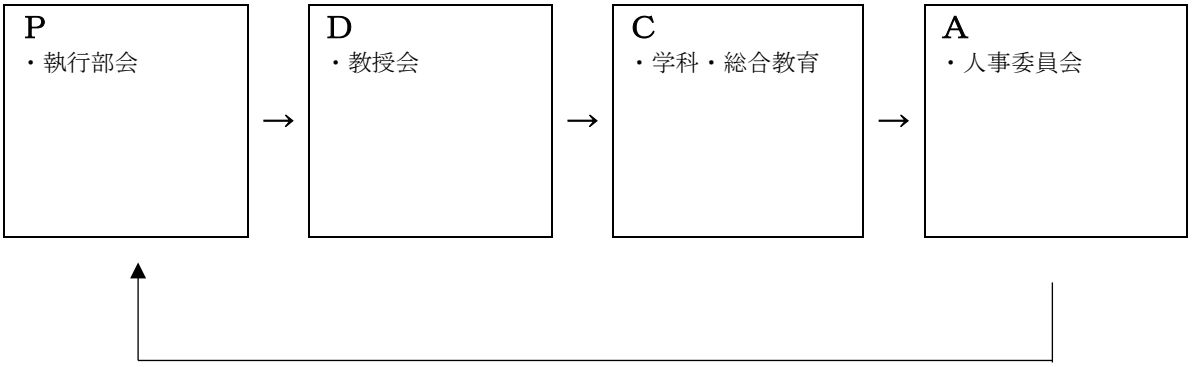
これを是正するべく，入試制度改革を入試専門委員会にて検討し，案を策定した後，工学部内部質保証推進委員会で審議を行い，承認後，機関決定を行っている。

改善・向上を図った主な事例としては，学校推薦型選抜（付属高等学校等）における出願条件において，「理系クラス」としていた条件を次年度では「文系クラス」も出願可能とし，対象の拡大を図ったほか，大学入学共通テストを利用した選抜において，高等学校において必修科目である「情報」を選抜対象科目の選択科目の一つとして追加した。

これらの提案について，工学部内部質保証推進委員会からは，妥当である旨の回答があり，機関決定に向け対応を行ったところである。

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑱　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

工学部では，人事委員会において教育の質を保証するために，一貫したカリキュラム編成を目指し，教員組織における専任，非常勤の比率の適切性や担当コマ数の配分にも留意しながら，特定の専門領域の教員が不足することのないように，教育研究の継続性を図れるよう計画的に専任教員を配置することを念頭に教員配置計画を策定している。この計画は，毎年度，点検・検証され，継続的な教育研究ができるように努めている。また，各学科・総合教育からの要望を基に，教員採用や昇格について検討を行い，各学科・総合教育が継続的かつ安定的に活動できる組織になっているかを評価し，その情報を学部執行部で共有した上で指示している。一例としては，教員採用においては，学部全体の教員組織の状況や入学者数などの動向を考慮し，毎年採用計画を見直して調整を行っている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

本記述のみでは，具体的にどのような基準や手順に基づいて調整がなされているかが確認で

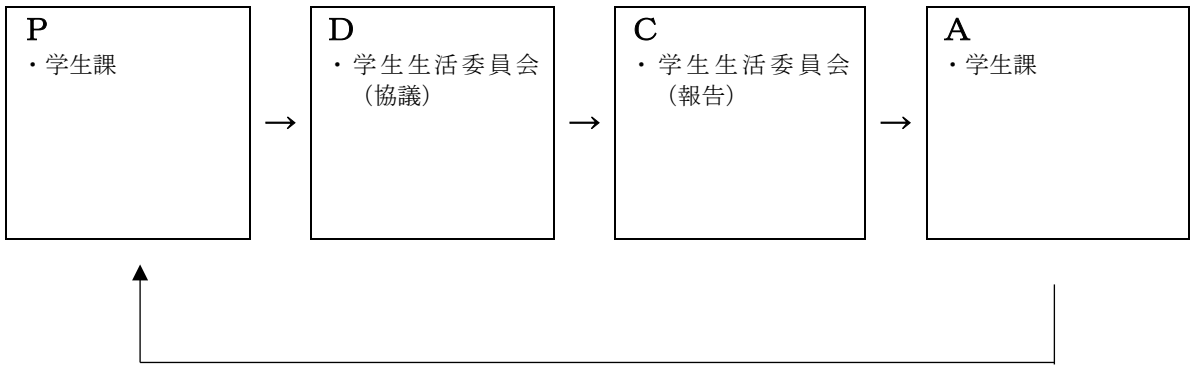
きず，実効性を判断することは難しいため，改善が求められる。
本記述からは，教職の「役割分担」や「責任の明確化」に関する具体的な取り決めや実施内容が十分には読み取れないため，改善が求められる。
教育研究活動の質と継続性を重視する姿勢自体は理解できるものの，男女比の偏りに対する具体的な対応がなされていない点については，教員組織の多様性確保という観点から改善の余地があり，改善が求められる。

執行部会では，学部運営全体の指針を策定し，人事委員会は教員配置計画において重要な役割を担っており，教授会において具体的な活動を決定している。決定された指針や計画に基づいて，各学科や総合教育が教員組織の状況に定期的にチェックを行い，評価で明らかになった課題に対して，人事委員会が各学科や総合教育と連携して改善策を実行している。

現在の教員組織は，多様性の確保に課題を抱えており，この課題を解決するには，ＰＤＣＡサイクルによる継続的な改善と，執行部会・人事委員会・教授会・各学科が一体となった具体的な行動が不可欠である。

基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

学生支援に関わる事項について，学生課で立案し学生生活委員会で協議の上，実行している。実施後は学生生活委員会に報告し，実施目的の達成度の観点から点検・評価を行うとともに，委員から意見を聴取し，次回の改善につなげている。

改善・向上に取り組んだ一例として，新入生対象の学内研修を挙げる。この研修は，学生課で立案，学生生活委員会で協議の上，令和７年４月に新入生を対象に学内研修を実施した。実施後に参加者アンケートを行い，学科の学びに関連した研修を実施した学科の方が，満足度が高い傾向が見られた。令和８年度の実施に当たっては，委員会で協議し，アンケートを基に学科の学びに近い研修先を選び，令和８年度の研修を実施する予定である。

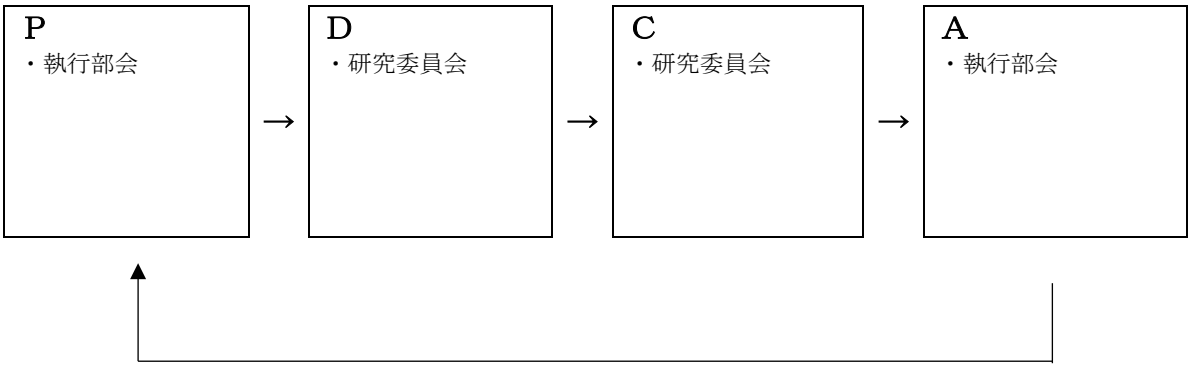
３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

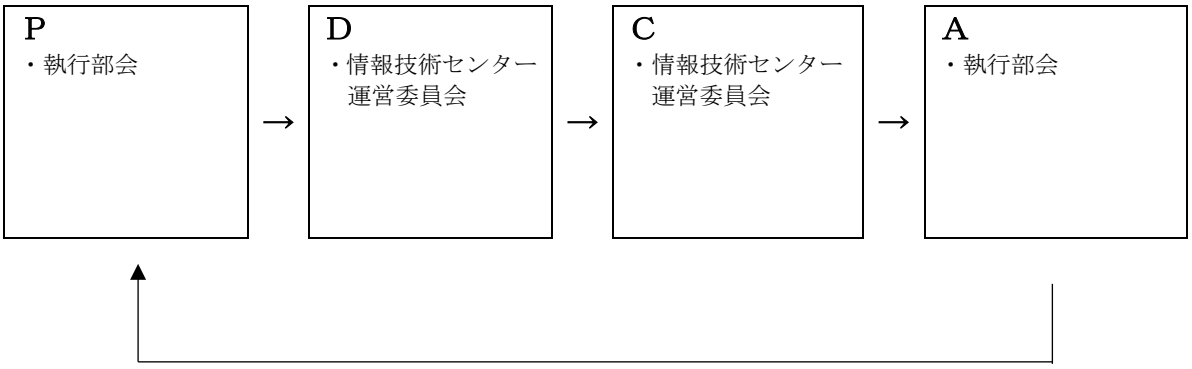
基準８ 教育研究等環境

1　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【研究等環境】



【ＩＣＴ環境】



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑩　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

研究等環境に関する事項については，主に研究委員会及び情報技術センター運営委員会の二つの組織において，継続的な点検・評価（検討・検証）が行われている。その結果を踏まえ，研究活動の基盤となるインフラストラクチャの整備や研究活動自体の適正性の確保，さらには支援体制の改善・向上につながっている。

令和７年度においては，ＩＴ環境の安定性及び利便性の向上が図られた。セキュリティ面で

は，旧ＯＳバージョンに係る脆弱性への対応として，ＩＤ管理システム及び認証サーバの更新を実施した。また，利便性向上の取組として，無線ＬＡＮアクセスポイントを次世代規格（Ｗｉ－Ｆｉ６）へ更新した。

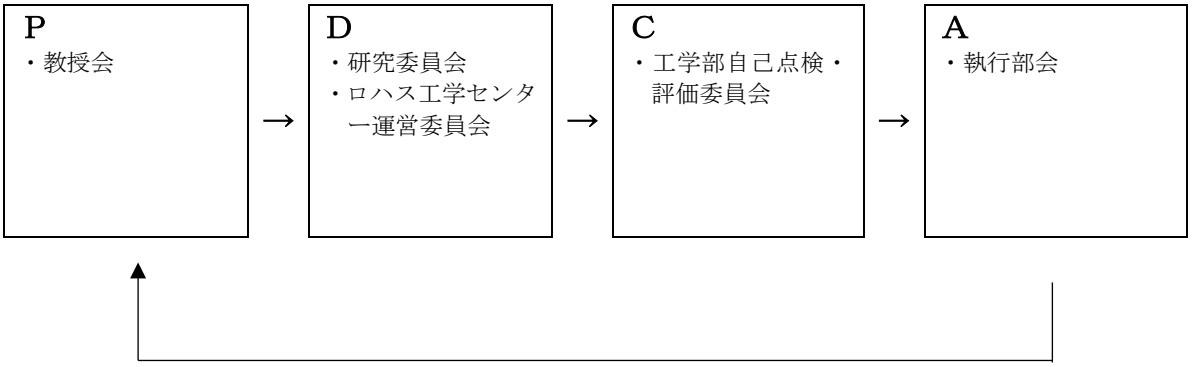
なお，これらの評価結果に基づき，工学部内部質保証推進委員会において改善策等を報告する予定である。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準９ 社会連携・社会貢献

１　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

社会連携・社会貢献に関わる事項について，年に１回の郡山市からの客観的視点による評価を受けて，地域連携等の意見に関しても，工学部自己点検・評価委員会に報告するなどをしている。しかし，地域連携に特化した学内に点検・評価する組織はなく，本学部におけるロハス工学に関する研究などの中枢を担う組織として設置しているロハス工学センターが研究面からの地域連携を検討し，実施している。また，令和４年２月にこおりやま広域連携中枢都市圏と各企業・団体等との間で締結した「公民協奏パートナーシップ協定」を締結し，その学部の窓口として庶務課が役割を担い，令和５年９月，本学部とマイクロモビリティサービス「BIRD」を日本で展開する BRJ 株式会社と福島県郡山市は，産学官連携による電動キックボード導入の社会実験の共同研究にかかる連携協定を締結した。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし